

資料5 民生児童委員

民生児童委員活動に係る意見聴取

開催日：令和5年11月28日（火）

対象：全地区（田中、滋野、柵津、和、北御牧地区）の民生児童委員

方法：事前に民生児童委員自己振り返りアンケートに回答いただき、その内容について地区ごとに3～5人でグループワークを実施した。その際、地域特性の近い委員同士で意見交換できるようにグループを分けた。

（1）民生児童委員自己振り返りアンケート結果

委員81名中78名が回答

基礎情報①性別

| 男性 | 女性 |
|----|----|
| 34 | 44 |

基礎情報②年代

| 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
|-----|-----|-----|-------|
| 1 | 3 | 38 | 36 |

基礎情報③日頃関わる対象者を教えてください（重複有）。

| 高齢者 | 児童 | 障がい者 | その他 |
|-----|----|------|-----|
| 68 | 35 | 31 | 10 |

設問1 委員として果たしてきた役割について、どの程度自信を感じていますか。

| 1 とても感じている | 2 まあ感じている | 3 あまり感じていない | 4 全く感じていない |
|------------|-----------|-------------|------------|
| 2人 | 47人 | 26人 | 3人 |
| 3% | 60% | 33% | 4% |

設問2 委員として取り組んできた活動に、どの程度の喜びや達成感を感じていますか

| 1 とても感じている | 2 まあ感じている | 3 あまり感じていない | 4 全く感じていない |
|------------|-----------|-------------|------------|
| 3人 | 55人 | 19人 | 1人 |
| 4% | 71% | 24% | 1% |

設問3 委員としての活動に対して、どの程度やりがい（モチベーション）を感じていますか。

| 1 とても感じている | 2 まあ感じている | 3 あまり感じていない | 4 全く感じていない |
|------------|-----------|-------------|------------|
| 12人 | 54人 | 12人 | 0人 |
| 15% | 70% | 15% | 0% |

設問4 委員としての活動に対して、負担を感じていますか。

| 1 とても感じている | 2 まあ感じている | 3 あまり感じていない | 4 全く感じていない |
|------------|-----------|-------------|------------|
| 19人 | 37人 | 20人 | 2人 |
| 24% | 47% | 26% | 3% |

設問5 今後、委員として地域における役割や目標を明確に感じていますか。

| 1 とても感じている | 2 まあ感じている | 3 あまり感じていない | 4 全く感じていない |
|------------|-----------|-------------|------------|
| 10人 | 49人 | 17人 | 1人 |
| 13% | 64% | 22% | 1% |

(2) アンケート結果等に係る考察及び課題について

上記(1) 自己振り返りアンケート結果から、日頃の民生児童委員活動において、関わる対象者は高齢者がもっとも多く、続いて児童、障がい者となっています。市が依頼している高齢者等実態調査を実施している背景や区のイベント等においてもいきいきサロン等といった高齢者向けの行事に関わる頻度が高いため、高齢者への関わりが圧倒的に多いことが理解できます。

また、委員の役割についての自信の有無や活動に対する喜び、達成感は、60%~70%の委員がポジティブに捉えております。そして、85%の委員がやりがい(モチベーション)を感じており活動自体を前向きに捉えていることが伺えます。

その一方で、委員活動に対する負担を感じている割合は70%を超えており、看過できない事実でもあります。

したがって、前向きに捉えている委員活動を持続化するためには、委員自身の負担感の要因を把握し、負担軽減に努めることが課題となります。

なお、地域における委員の役割を明確に把握している割合が77%にも上り、高齢者等と関わる中で自分自身の立ち位置を把握されたことが推察されます。

さらに、グループワークにおいて「委員としてやりたいこと」をテーマに意見交換したところ、身近な地域住民に声かけをしたり、気になる高齢者の家に訪問したり、話し相手になることという回答が多く、担当地域の身近な相談役を担う意識があることが伺えました。

また、区の行事に積極的に参加し、地域住民と出会う機会を図る意見も多く出ました。その中でも高齢者のみならず児童、障がい者といった多くの住民が参加しやすいように「ポッチャ」というツールを使う地域もありました。

(3) 民生児童委員の活動の持続化に向けて

多くの委員が、地域の中に出ていき、高齢者をはじめとした地域住民の話を聴き、寄り添いたいという意識を持っています。

また、地域住民の顔が「見える」「分かる」地域となるよう活動を進めていきたいとの意見も多くなりました。委員活動をする中で把握した課題やニーズについて、負担なく行政へ「つなぐ」という役割が行えるように福祉行政の職員の顔が「見える」ことも重要です。

行政等の支援者側が委員活動の丁寧なフォロー、バックアップを責任持って行うことで、安心して活動に取り組むことができます。それが民生児童委員の持続化につながっていくこととなり、高齢者をはじめとした地域住民の福祉の向上に資することになります。